

# Economic Indicators

発表日: 2023年4月28日(金)

## 消費者物価指数(東京都区部・23年4月)

～コアコアがさらに加速で、事前予想をはっきり上振れ～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

(単位: %)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
22	1月	0.5	0.2	▲ 1.9	▲ 1.1	20.3	0.6	0.2	▲ 1.2	▲ 0.7	20.5
	2月	0.9	0.6	▲ 1.8	▲ 1.0	20.6	1.0	0.5	▲ 1.1	▲ 0.6	19.7
	3月	1.2	0.8	▲ 1.6	▲ 0.7	18.5	1.3	0.8	▲ 1.0	▲ 0.4	17.0
	4月	2.5	2.1	0.1	0.8	15.7	2.4	1.9	0.3	0.8	14.2
	5月	2.5	2.1	0.2	0.8	13.9	2.4	1.9	0.3	0.9	11.9
	6月	2.4	2.2	0.2	1.0	13.3	2.3	2.1	0.4	1.0	11.4
	7月	2.6	2.4	0.4	1.2	10.2	2.5	2.3	0.4	1.2	8.6
	8月	3.0	2.8	0.7	1.6	9.1	2.9	2.6	0.6	1.4	6.6
	9月	3.0	3.0	0.9	1.8	9.1	2.8	2.8	0.8	1.7	6.5
	10月	3.7	3.6	1.5	2.5	5.5	3.5	3.4	1.2	2.2	3.4
	11月	3.8	3.7	1.5	2.8	1.6	3.7	3.6	1.2	2.4	0.5
	12月	4.0	4.0	1.6	3.0	3.1	3.9	3.9	1.3	2.7	3.0
23	1月	4.3	4.2	1.9	3.2	2.0	4.4	4.3	1.7	3.0	1.9
	2月	3.3	3.1	2.1	3.5	▲ 0.6	3.4	3.3	1.7	3.1	▲ 0.6
	3月	3.2	3.1	2.3	3.8	▲ 2.7	3.3	3.2	2.0	3.4	▲ 2.1
	4月	-	-	-	-	-	3.5	3.5	2.3	3.8	▲ 1.3

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

### 予想以上の上昇。コアコアが強い

本日総務省から発表された23年4月の東京都区部消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比+3.5%と、前月の+3.2%から0.3%Pt上昇率が拡大した。事前の市場予想(前年比+3.2%、筆者予想+3.3%)をはっきり上回る強い結果である。原燃料費の落ち着きや前年の裏の影響もあってエネルギー価格が前月から明確に下振れた一方で、コアコアが大幅に伸びを拡大させており、内容はヘッドラインの数字以上に強い。企業の価格転嫁意欲が予想以上に強いことが改めて示されたと言えるだろう。

今月特に強かったのが食料品(生鮮除く)であり、前年比の伸びが加速している。結果として、食料品を含んでいる日銀版コア(生鮮食品及びエネルギーを除く総合)は前年比+3.8%と、前月の+3.4%から大幅に伸びが高まっている。また、エネルギーや食料以外でも幅広く上昇がみられており、食料(酒類を除く)及びエネルギー除く総合(米国型コア)も前年比+2.3%(3月:+2.0%)と強い。4月は年度替わりのタイミングということもあり、企業が価格転嫁をこれまで以上に進めたことが示唆される。

## 食料の伸びが加速。食料以外も強い

4月の電気代は前年比▲7.9%（3月：▲6.0%）、都市ガス代は前年比+6.2%（3月：+12.3%）と、それぞれ伸びが鈍化した。政府による負担軽減策はこれまでと変わっていないが、4月は都市ガス代で原燃料費の落ち着きにより値下げが実施されたことに加え、昨年同時期に上昇していた裏が出たこともあり、前年比では3月と比べて大きく下押しする形となっている（電気・都市ガス代の前年比寄与度：3月+0.02%Pt → 4月▲0.15%Pt）。

一方、エネルギー以外は非常に強い。4月の食料品（生鮮除く）は前年比+8.9%と、前月（+8.1%）から伸びが一段と高まった（前年比寄与度：3月+1.81%Pt→4月+2.00%Pt）。菓子類や飲料、酒類や調理食品など幅広い品目で値上げがみられている。ちなみに食料品（生鮮除く）は前月比でも+1.4%と非常に高い伸びとなっており、これは「値上げの秋」と言われた昨年10月の上昇率（前月比+1.3%）を上回る。4月は年度替わりのタイミングということもあり、企業がこれまで以上に積極的な価格転嫁を進めたようだ。食品価格の上昇が家計を圧迫する動きはまだ続くだろう。こうした食料品の押し上げもあり、4月の日銀版コア（生鮮食品及びエネルギーを除く総合）は前年比+3.8%と、前月の+3.4%からはっきり伸びが高まっている。コアコアの加速が止まらない。

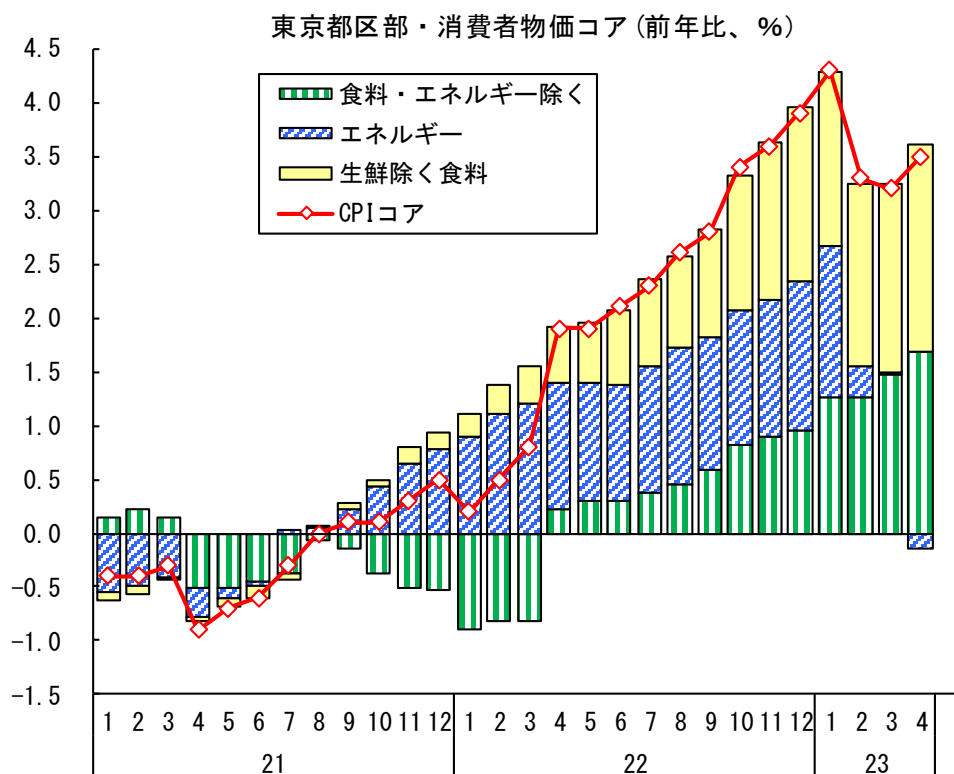
強いのは食料だけではなく、食料（酒類を除く）及びエネルギー除く総合（米国型コア）も前年比+2.3%と、前月の+2.0%から伸びがはっきり高まった。首都圏の鉄道各社が値上げを実施したことに加え、補習教育などでも伸びが高まるなど、幅広く値上げが行われている。また、宿泊料（前年比寄与度：3月▲0.01%Pt → 4月+0.10%Pt）の押し上げも大きい。これはウィズコロナの進展や全国旅行支援による後押しもあって旅行需要が堅調なことが価格の引き上げに繋がっているものとみられる（旅行支援は各都道府県の予算が続く限り4月以降も延長）。宿泊料については需要要因が大きそうだが、その他の品目については、過去の円安等によるコスト増の影響が大きいとみられる。昨年の円安により輸入品の価格が全般的に押し上げられたことで、価格転嫁の動きがエネルギーや食料品以外にも広がっていることが確認できる。

## 物価上昇圧力は依然強い

本日の東京都区部の結果を踏まえると、5月19日に公表される4月の全国CPIコアは前年比+3.5%前後が予想される。3月の+3.1%から上昇率がはっきり高まるだろう。

先行きについては、当面高止まった後、年後半以降は鈍化に向かうと予想しているが、これまで筆者が想定していたよりも上振れて推移する可能性が高まっていると言わざるを得ない状況だ。本日のコアコアの強さにもみられるとおり、企業の価格転嫁意欲は予想以上に強い。過去の円安等によるコスト上昇の未転嫁分が残っていることに加え、電気代やガス代の上昇、人件費負担の増加等が値上げの理由として挙げられるようになっており、しばらくは積極的な価格転嫁が実施される可能性が高いだろう。値上げに対する批判の声がかつたと比べて小さくなっている分、価格引き上げを行いやすくなっていることも大きい。23年前半についてはCPIコアが前年比+3%台前半～半ばで高止まりする可能性が高いとみている。

川上からの物価上昇圧力が足元でピークアウトしつつあることや、22年の物価上昇ペースが非常に速かった裏が出ることも相まって、23年後半については鈍化を見込んでいるが、これまで想定していたよりもそのペースが鈍くなる可能性が生じている。為替レートや電気代・ガス代の負担軽減策が延長されるかどうかによっても変わってくるが、CPIコアが年内に前年比+2%を割り込まない可能性も否定できないだろう。



（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。